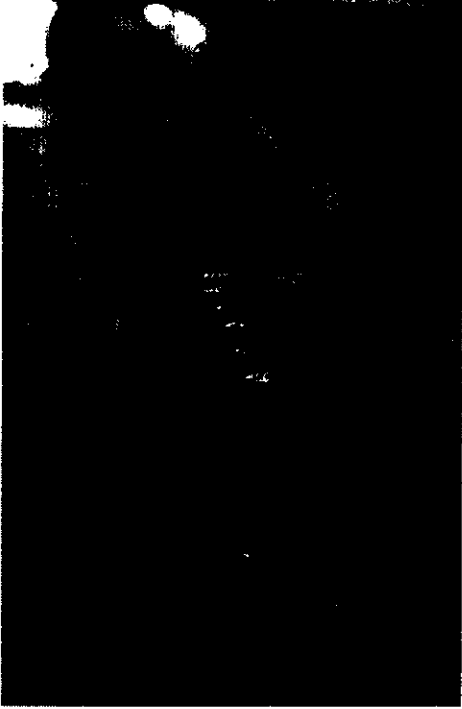


平成27年度

シ
ラ
バ
ス



1 学年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1学年
教材	教科書	新編 国語総合		単位数	2
	副教材	常用漢字の1/2トライ		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力、読む能力を総合的に育てます。 2 言語事項に関する知識、理解を深めます。 3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 小テストを実施し、ワークシートや単元ごとにワークを行います。 2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。 3 古典(古文・漢文)を読んで独特のリズムを味わい、古人の考え方を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○感動する心	・国語総合の学習について ・ワンダフル・プラネット	学習規律の徹底 ※単元ごとにワークをします。
	5	○日本語を見つめる ○古文に親しむ	・漢字の性格 ・古典の魅力	
	6	○随筆の楽しみ	・春はあけぼの	[中間考査]ノート提出
	7	○小説を楽しむ	・子供たちの晩餐	
	8	○古文に親しむ	・児のそら寝	
	9	○漢文のとびら ○社会に生きる	・漢文のすすめ ・「何のために『働く』のか」	[期末考査]ノート提出

前期目標				
後	10	○古文に親しむ	・ねずみの婿とり	
	11	○小説を味わう	・羅生門	
	12	○漢文のとびら ○随筆の楽しみ	・訓読のきまり ・格言 ・高名の木登り ・にくきもの	[中間考査]ノート提出
	1	○いのちと心 ○論理をはぐくむ	・心が生まれた惑星 ・水の東西	
	2	○漢文のとびら	・故事成語	[学年末考査]ノート提出
	3	○詩歌との出会い	・「はる」「一つのメルヘン」 ・「あどけない話」「短歌」 ・「俳句」	
	後期目標			

評価方法	・定期考査・小テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に対する関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。
	【話・聞】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた話し方、聞き方が出来るか。
	【書】	・自分の考えを深め、相手や目的に応じた適切な文章を書けるか。
	【読】	・自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。

教科名	公民	科目名	現代社会	学年	1 学年
教材	教科書	高等学校 現代社会 最新版 (清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校 現代社会 最新版ワークノート・資料集 (清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1	現代社会の基本的な問題について、主体的に考察する力を培います。			
	2	社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正に判断する力を養います。			
	3	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めます。			
学習の進め方	1	教科書を中心に前期は青年期と政治、後期は経済と国際社会について学びます。			
	2	考查毎にレポート課題を行い、自分の思考力や表現力を高めます。			
	3	毎時のワーク提出や小テストを随時行い、学習した内容の理解を深めます。			

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○青年と自己実現	・青年期とは ・青年期の生き方とはたらくこと ・文化や信仰	※単元毎にワークを提出します。
	5	○民主政治の基本原則	・基本的人権の保障 ・日本国憲法、国民主権、天皇制 ・日本国憲法の人権保障	・小テスト
	6		・国会 ・内閣 ・課題レポートⅠ (情報化)	・中間考查 ・ファイル提出 ・課題レポートⅠ
	7	○国民の政治参加と地方自治	・裁判所と裁判員制度 ・日本の平和主義 ・地方自治	
	8	○個人の尊重と法	・政党政治と選挙 ・個人の尊重と自由・責任 ・社会契約論	
	9		・法の意義と役割 ・差別のない世界、公正な社会 ・課題レポートⅡ (生命倫理)	・期末考查 ・ファイル提出 ・課題レポートⅡ
前期目標				
後	10	○現代の経済社会	・経済主体と経済循環 ・景気変動と物価、経済規模と経済成長 ・戦後の日本経済	
	11		・企業の役割とはたらき ・租税のしくみと財政 (租税教室を含む) ・金融機関と金融政策	・小テスト
	12		・課題レポートⅢ (死刑制度) ・社会保障制度の役割と課題 ・労働問題	・中間考查 ・ファイル提出 ・課題レポートⅢ
	1	○国際社会の動向	・グローバリゼーションと国際社会 ・冷戦のはじまりと世界の動き ・国際収支と為替相場	
	2		・経済のグローバル化 ・国際経済の諸問題 ・冷戦後の世界と核軍縮	・期末考查 ・ファイル提出
	3	○国際社会と日本	・国際連合と国際平和 ・日本の安全保障と平和維持活動 ・課題レポートⅣ (入試問題)	・課題レポートⅣ
後期目標				

評価方法	・定期考查・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートの内容、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・公民科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	【関意態】 現代社会に対する関心の高さ、授業の取り組みが積極的か (提出物の状況)
	【恵判表】 社会の諸問題に対する多面的な視点があるか (定期考查)、表現方法や内容 (レポート)。
	【技能】 資料の選択・活用がなされているか (レポート、定期考查)
	【知理】 現代社会の基本的事項を身につけているか (定期考查・小テスト)

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	学年	1学年
教材	教科書	新編 数学Ⅰ (東京書籍)		単位数	2
	副教材	ニューアシスト 新編 数学Ⅰ (東京書籍)		履修区分	共通
学習の目標	1 数を実数まで拡張する意義や、集合と命題の基本的な概念を理解できるようにする。				
	2 式を多面的にみたり処理したりできるようにする。				
	3 1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、式の展開や因数分解、実数と絶対値まで学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、根号、1次不等式、集合と論証、2次関数の最初まで学ぶ。				
	3 週ごとに週末課題をワークから出して提出させ、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○中学までの復習 ○式の計算 ○式の計算	・数学Ⅰの学習について ・新入生課題の解説 ・整式 ・整式の加法、減法、指数法則 ・式の展開	*年間を通して小テストを行っていく ・新入生課題のテスト
	5			
	6	○式の計算	・因数分解(初歩的なものとたすきがけ)	・中間考査 ・ノート提出
	7	○式の計算	・因数分解(工夫が求められるもの)	
	8	○実数	・有理数、実数、絶対値	
	9	○実数	・平方根、分母の有理化	・期末考査 ・ノート提出
前期目標				
後	10	○1次不等式	・不等式とその解 ・1次不等式の解法 ・1次不等式的应用	
	11	○1次不等式 ○集合	・連立1次不等式の解法 ・集合、部分集合、共通部分と和集合、空集合、補集合	
	12	○命題と条件	・命題と条件、必要条件、十分条件	・中間考査 ・ノート提出
	1	○命題と条件	・条件の否定とド=モルガンの法則	
	2	○命題と条件	・命題の逆、裏、対偶 ・対偶を利用する証明法 ・背理法	・学年末考査 ・ノート提出
	3	○2次関数とそのグラフ	・関数 ・関数の定義域、値域 ・2乗に比例するグラフ	
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、週末課題やノートの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価する。 ・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。
評価の観点	【関・意・態】 週末課題の提出割合、ノートの作成状況、日常の授業への参加態度等。
	【数学的見方】 授業やノートで、問題の解き方が多面的、発展的になされているか等。
	【数学的技術】 小テストの成績等。
	【知・理】 定期考査。

教科名	理科	科目名	化学基礎	学年	1
教材	教科書	新編 化学基礎		単位数	2
	副教材	改訂版 リードlight ノート 化学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 化学が人間生活に果たしている役割を理解する。				
	2 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。				
	3 化学の基本的な概念や法則を理解する。				
	4 探究活動や実験を通して、化学的に探究する能力を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、原子の構造や化学の基本概念や法則を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	第1編 物質の構成と化学結合 ○物質の構成	・混合物と純物質 ・物質とその成分	
	5	○物質の構成粒子	・物質の三態と熱運動 ・原子とその構造	・小テスト
	6	○粒子の結合	・原子とその構造イオン ・周期表 ・イオン結合	・中間審査 ・ノートファイル提出
	7		・分子の共有結合と極性	
	8	第2編 物質の変化 ○物質と化学反応式	・共有結合の物質 ・金属結合と金属 ・原子量、分子量、式量	
	9		・物質質量	・期末審査 ・ノートファイル提出
前期目標				
後	10		・溶液の濃度	・小テスト
	11		・化学反応式と物質質量	
	12	○酸と塩基の反応	・酸、塩基 ・水の電離と水溶液のpH ・中和反応	・中間審査 ・ノートファイル提出
	1	○酸化還元反応	・塩 ・酸化と還元	
	2		・酸化剤と還元剤	・学年末審査 ・ノートファイル提出
	3		・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期審査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。 			
評価の観点	【関・意・態】	宿題、提出物、レポートの提出状況、ノートファイルの整理。		
	【思・判・表】	ビデオレポートや実験レポート、プレゼンテーションの内容。		
	【技能】	実験・観察レポート。		
	【知・理】	定期審査・小テスト。		

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 1年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動	・シャトルランによる体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動	・マット運動の基本技能 (個々の能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・発表会の実施
	6	○体育理論	・運動・スポーツの文化的特徴	・前期中間考査
	7	○陸上競技	・短距離走 (50m、100m)	・記録会の実施
	8	○水泳	・クロールの習得 (ゆっくり長く泳ぐ)	・記録会の実施
	9	○陸上競技	・長距離走長距離走 (トレッキング、ウォーキング ジョギング)	・競歩記録会の実施 ・前期期末考査
前期目標				
後	10	○球技 ○体育理論	・バレーボール (個人技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開します。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12	○スキー	・クロスカントリースキーの見学体験(多様なスキー文化を知る。)	・クロスカントリーコースでの見学と取材活動
	1		・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・技能テストの実施
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。	
評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。
	【技能】	・運動技能が上達しているか。

教科名	保健体育	科目名	保健	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	1
	副教材			履修区分	共通
学習の目標	1 日常生活と健康の関わりについて理解を深めます。				
	2 心の健康について理解を深めます。				
	3 日常生活における事故防止や安全の確保について理解を深めます。				
学習の進め方	1 自らの心身の健康について考えます。				
	2 現代社会が健康に及ぼす影響等について考えていきます。				
	3 日常的な応急手当や心肺蘇生について学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○私たちの健康のすがた	・保健の学習について ・わが国の健康水準 ・わが国の健康問題	・授業規律についての確認
	5	○健康のとらえ方 ○健康と意志決定 行動選択	・健康とその成り立ち ・健康と意志決定、行動選択の関わり	
	6	○健康に関する環境づくり ○生活習慣病とその予防 ○食事と健康	・健康と環境・ヘルスプロモーション ・生活習慣病とその予防 ・健康的な食生活	・前期中間考査
	7	○運動と健康 ○休養・睡眠と健康	・運動の意義、運動習慣の形成 ・よりよい休養と睡眠	
	8	○喫煙と健康	・喫煙の健康被害と対策	
		○飲酒と健康	・飲酒の健康問題と対策	
		○薬物乱用と健康	・薬物乱用と健康との関わりと問題、防止と対策	
	9	○現代の感染症 ○感染症の予防 ○欲求と適応機制	・さまざまな感染症とその問題 ・感染症の予防と対策 ・欲求、欲求不満と適応機制	・前期期末考査

前期目標	
------	--

後	10	○心身の相関とストレス ○ストレスへの対処 ○心の健康と自己実現	・心身相関のしくみとストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現の関わり	・後期中間考査
	11	○交通事故の現状と要因 ○交通社会における 運転者の資質と責任	・交通事故の現状と要因 ・運転者の資質 ・運転者の責任と補償	
	12	○安全な交通社会づくり	・法的整備、施設・設備 ・車の安全性向上	
	1	○応急手当の意義と その基本	・応急手当の意義と手順	
	2	○心肺蘇生法	・心肺蘇生の意義と手順	
	3	○日常的な応急手当	・けがや熱中症の応急手当	

後期目標	
------	--

評価方法	・定期考査や日常の授業における参加意欲や学習態度を中心に評価します。
------	------------------------------------

評価の観点	【関・意・態】	・健康や安全について興味関心をもち、意欲的に授業に参加しているか。
	【思・判】	・自らの健康安全について考え、改善しようとしているか。
	【知・理】	・健康の保持増進や安全の確保について、理解できているか。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語 I	学年	1 学年
教材	教科書	Compass English Communication I (大修館)		単位数	2
	副教材	Compass English Communication I 学習ノート (大修		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英文を読み、理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、簡単な英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分の考えを、簡単な英文で書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、内容理解や音読練習、表現練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルやプリントの提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	オリエンテーション Warm-up1 Warm-up2	・英語の学習の進め方 ・既習事項の復習 ・発音	※単元毎にワークを提出します。	
	5	L1 Dear Fifteen-year-olds	・現在形・過去形 ・未来を表わす表現 ・進行形 ・前置詞句による修飾	・小テスト ・プリント	
	6	L2 Nature's Number Ones	・比較表現 (同格・比較級・最上級) ・助動詞 ・疑問詞which~?	・中間考查 ・ファイル提出	
	7			・小テスト ・プリント	
	8	L3 Kimonos are Cool!	・S+V+C (C=that節) , 接続詞 ・S+V+O (O=that節) ・受動態 ・日本文化の紹介	・小テスト ・プリント	
	9			・期末考查 ・ファイル提出	
	前期目標				
	後	10	L4 Brave Mari and Her Puppies	・不定詞 (名詞的用法) ・不定詞 (形容詞的用法) ・不定詞 (副詞的用法) ・分詞による修飾	・小テスト ・プリント
		11			・中間考查 ・ファイル提出
12		・動名詞① (主語, 動詞の目的語) ・誘う、申し出る時の表現	・小テスト ・プリント		
1		Supplementary Reading A child's garden	・英語での多読、精読 ・励ます、断言する時の表現	・学年末考查 ・ノート提出	
2		L5 Saki's First Trip to Australia	・現在完了形 ・間接疑問文 ・動名詞		
3					
後期目標					

評価方法	・定期考查・小テストの成績、ファイルやプリントの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。				
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。			
	【表現】	英語で話し合い・意見の交換ができる、情報や考え等を簡潔に書くことができる。			
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる			
	【知識】	言語やその運用・文化背景についての知識を理解し、身に付いている。			

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	学年	1学年
教材	教科書	家庭基礎 ともに生きる 明日をつくる		単位数	2
	副教材			履修区分	共通
学習の目標	1 一生と家族・福祉・衣食住・消費生活に関する基礎的知識を身につける。				
	2 家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上を図る。				
	3 実習を通して調理の基本的技能を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、基礎的・基本的知識を学びます。				
	2 調理実習を行って、調理の基礎技術を学びます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	第1章 人の一生と家族	・青年期の課題 ・家族とは	・調理実習	
	5	第2章 保育	・赤ちゃんの特徴 ・親になるとはどういうことか		
	6	第3章 高齢者	・超高齢社会の課題	・中間審査 ・ノートファイル提出	
	7	第4章 共生社会	・共生		
	8	第1章 食生活	・食生活を見つめてみよう	・調理実習	
	9		・食品の選択と取り扱い		
	10		・献立づくりと調理		・期末審査 ・ノートファイル提出
	前期目標				
	後	11			・調理実習
12		第2章 衣生活	・なぜ服を着るの？ ・衣服の成り立ちと性質	・調理実習 ・中間審査 ・ノートファイル提出	
1			・衣服の管理	・学年末審査 ・ノートファイル提出	
2		第3章 住生活	・だれが暮らしているのだろうか ・どのように暮らす？ ・これからの住生活とは？		
3		第4章 消費生活 第5章 環境	・一人暮らしに必要なものは？ ・環境のためにできること		
後期目標					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期審査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 家庭科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。 			
評価の観点	【関・意・態】	宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。		
	【思・判・表】	ビデオレポートや実習レポート、プレゼンテーションの内容。		
	【技能】	実習レポート。		
	【知・理】	定期審査。		

教科名	美術	科目名	美術 I	学年	1
教材	教科書	美術 I [光村図書]		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 絵画制作の基礎技能と構成力を身につける。				
	2 制作者の観点を基にした美術作品鑑賞の態度を育てる。				
学習の進め方	1 クロッキー、エスキースを重ねて彩色画の完成度を高める。				
	2 アクリル絵具の素材とさまざまな彩色法を学ぶ。				
	3 色彩学の基礎を学び、画面構成の力を育てる。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	クロッキー	素描の要素を学ぶ ・線 ・筆致 ・色 ・淡彩	クロッキーの制作
	5			
	6	風景画	クロッキーからスケッチ、彩色画への発展 ・パネルの製作 ・構図 ・モチーフの構成 ・彩色エスキース ・下絵～彩色	風景画の制作
	7			
	8			
	9			
前期目標				
後	10		・歴史上の名作自画像の鑑賞 ・観察に基づいた素描 ・具象表現 ・心象表現	自画像の制作
	11			
	12			
	1	色彩基礎	・色の三要素（デザイン） ・色彩のコンビネーション ・対比と分解	三要素表の制作
	2			色面構成作品の制作
3				
後期目標				

評価方法	学習内容が絵画・彩色作品に活かされていること 計画的に作品制作を進め、進捗と完成度のバランスが取れていること 挙手、発表、鑑賞などを通じて積極的に授業参加する努力に加点				
評価の観点	【関・意・態】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、美術への関心を高められるか。			
	【発想・構想】	課題に応じて形態の把握、構図や彩色法、道具、材料の計画的な選択ができるか。			
	【技能】	作業工程に応じた適切な作業技術、進捗と画面の確認を含め適切な描画ができるか。			
	【鑑賞】	自他の作品から、学習したことがらを含めて感想、評価を明確にできるか。			

教科名	工芸	科目名	工芸 I	学年	1
教材	教科書	工芸 I		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 木材以外の工芸制作の基礎技能と構成力を身につける。 2 生活に生きる立体デザインの基礎を学ぶ。				
学習の進め方	1 さまざまな素材の工芸制作を体験し、素材の美しさを活かす作品作りを学ぶ。 2 金属工芸の基礎技能を学ぶ。 3 陶芸の基礎を学ぶ。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	デザイン	・クロッキーを基にした線のまとめ、誇張、簡略 ・有機物と無機物の線描 ・木材のモデルづくりから手触りのモジュール感	
	5			
	6	金属工芸①	真鍮のペーパーナイフをつくる ・モチーフの誇張と簡略から得られる線を探す ・金属の特徴、加工法、道具、作業順、注意点を学ぶ ・真鍮板からの削り出しでペーパーナイフをつくる	真鍮のペーパーナイフ
	7			
	8			
	9			

前期目標						
後	10	陶芸基礎 金属工芸② ペーパークラフト	陶芸の基礎技法を学ぶ ・陶芸の仕組み、加工法、作業順を学ぶ ・たたらし作り ・ろくろ水挽き	真鍮板のエッチング加工を学ぶ ・金属の腐食、溶解作用 ・シルエットデザイン	ペーパークラフトをつくる ・立体作品の考え方 ・紙工作の基礎技法 ・部品を組み合わせる構造	陶芸作品二点 エッチング作品一～二点 ペーパークラフト数点
	11					
	12				理解したい点 金属…腐食溶解 陶芸…SiO ₂ の熱変成 紙… 弾性と剛性	
	1					
	2					
	3					
後期目標						

評価方法	学習内容が作品に活かされていること 計画的に作品制作を進め、進捗と完成度のバランスが取れていること 挙手、発表、鑑賞などを通じて積極的に授業参加する努力に加点	
評価の観点	【関・意・態】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、工芸への関心を高められるか。
	【発想・構想】	課題に応じて形づくり、構成や加工法、道具の計画的な選択ができるか。
	【技能】	作業工程に応じた適切な作業技術、進捗と画面の確認を含め適切な描画ができるか。
	【鑑賞】	自他の作品から、学習したことがらを含めて感想、評価を明確にできるか。

教科名	工業	科目名	工業技術基礎	学年	1
教材	教科書	工業技術基礎		単位数	4
	副教材	木材の性質と加工		履修区分	共通
学習の目標	1 木材加工の道具の使い方、基礎技能を身につける。				
	2 計画と見通しを持った作品づくりを学ぶ。				
学習の進め方	1 基礎的な加工法を学びながら木工作品づくりに取り組む。				
	2 道具の持ち方、安全な使い方、仕立て、メンテナンスを学ぶ。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4		・教室の使い方、清掃の仕方、 服装を学ぶ。	教室の使い方 清掃 服装
	5	蛇腹	・道具の名前、種類、働き方を 学ぶ。	課題① 木材の蛇腹
	6		・胴付のこ、スコヤ ・クランプ	
	7	木材をかんなで削る	・台かんなの持ち方、使い方、 姿勢	課題② 木材を薄く平らに削る
	8		・木材を平らに削る ・台かんなを校正する ・刃を研ぐ	
	9			
前期目標				
後	10	ほぞを彫る	・追入のみの持ち方、使い方 ・ほぞの手彫り ・のみを仕立てる 校正する	課題③ 鍋敷き
	11		・木口削り ・木彫オイルで塗装する ・追入のみ、罫引き、木彫オイル	
	12	小箱を作る	・手道具を場面に合わせて使う ・仕口合わせ ・接着の仕方 ・隙埋め	課題④ 箱ものA_のみ箱
	1		・のこ、のみ、接着剤、木彫オイル	
	2	小箱を作る	・組立て順の理解 ・木ねじ、座グリ、頭埋め ・蝶番、留め金具 ・ドライバー	課題⑤ 箱ものB_彫刻刀箱
3				
後期目標				

評価方法	学習内容が作品に活かされていること 計画的に作品制作を進め、進捗と完成度のバランスが取れていること 挙手、発表、鑑賞などを通じて積極的に授業参加する努力に加点	
評価の 観点	【関・意・態】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、制作への関心を高められるか。
	【思・判・表】	課題に応じて形態の把握、構成や加工法、道具の適切な選択ができるか。
	【技能】	作業工程に応じた適切な作業技術、進捗と完成度の確認をしながら適切な作業進行ができるか。
	【知・理】	道具・材料類の設定、使用法、使用上の留意事項について理解できるか。

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	1学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	1
	副教材			履修区分	必修
学習の目標	1製図の基礎となる平面図法、立体図法作図の基本を身につけます。				
	2形態と図面との関係を正確に理解し、図面を読図する能力を育てます。				
	3構想と表示の能力を養います。				
学習の進め方	1製図に用いる基本的な道具の使用法を学びます。				
	2製図の基礎となる平面図法、立体図法について学び作図をします。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション	・年間指導計画、学習の心構え、評価方法について		
	5	○製図について	・製図の目的や道具の名前、使用方法について	ファイル提出	
		○平面図法	・平面図法を作図します。 ・直線に関する図法		
	6		・円に関する図法	ファイル提出	
	7		・接触角に関する図法	ファイル提出	
	8		・曲線に関する図法	ファイル提出	
	9		・前期まとめ	理解度テスト	
	前期目標				
	後	10	○立体図法	・投影図の種類	ファイル提出
11			・投影図の種類	ファイル提出	
12			・第三角法と等角投影法	ファイル提出	
1			・第三角法と等角投影法	ファイル提出	
2			・後期まとめ	ファイル提出	
3				理解度テスト	
後期目標					

評価方法	・理解度テストの成績、ワークシートの提出状況、ワークシートの内容、日常の授業への参加態度、技能等で評価します。				
評価の観点	【関・意・態】	・製図道具管理や図法の基礎・基本の習得に意欲的に取り組んでいるか。			
	【思・判・表】	・作図方法、立体や平面の把握、製図用具の扱い方などを理解しているか。			
	【技能】	・製図用具を正しく使用し、丁寧な作図ができるか。			
	【知・理】	・作図の当分や比率の把握、平面図法、立体図法の概念を理解しているか。			

教科名	工芸	科目名	木材理論	学年	1学年
教材	教科書	なし		単位数	1
	副教材	木材の性質と加工（開隆堂）		履修区分	共通
学習の目標	1 生活における工芸の意義を理解する。 2 素材や加工法についての基礎的、基本的な内容を理解する。				
学習の進め方	1 副教材や配布プリント、板書やビデオ教材を通して知識を身に付けます。 2 森林探訪を通して、樹木の生物学的な性質と素材としての性質について理解します。				

期月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4 オリエンテーション 木材資源と人間	木材の分類と種類 木材の肉眼的構造	授業で配布する資料は、忘れずファイリングしてください。板書をまとめ、理解しやすく記録を取ってください。	
	5 木材の組織構造 森林探訪	木材の種類と性質について、一部前倒しして学習します。	森林探訪に参加し、音威子府村内でフィールドワークします。	
	6 異常組織と傷害組織		前期中間考査	
	7 木材の物理的性質		体験的学習は、特に主体的に取り組むようにしましょう。そのためにも、基礎的知識の確実な定着が求められます。	
	8 栈積み実習	材料庫整理と栈積み体験		
	9 木材の機械的性質	ビデオ教材の鑑賞①	前期末考査（評価が出ます。）	
	前期目標	木材の基礎的知識を理解し、得た知識を実習科目の作品制作と結び付けて考えることができる。		
	後	10 木質材料・緊結材		
		11 接着剤		後期中間考査
12 木材の種類と性質			他の実習科目の学習内容と結びつけ、考えるようにしましょう。	
1 塗装				
2 学習の復習・まとめ			学年末考査（評価が出ます。）今後の制作で必要な知識をしっかりとつけておきましょう。	
3 学習の復習・まとめ		ビデオ教材の鑑賞②	木工芸以外についても知りながら木のよさを考えましょう。	
後期目標	実習科目の経験と基礎的知識が結びつき、作品制作の作業工程や木材を意図に応じて組み立てようとする事ができる。			

評価方法	定期考査や授業ファイルの提出状況、日常の授業への参加の態度（意欲的に・主体的に学習や鑑賞に取り組んでいるか。感性をはたらかせて工芸のよさや美しさを感じることができるか）で、総合的に判断し評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	学習の内容について理解し、積極的に取り組むことができるか。
	【思・判・表】	木工芸に関する基礎的な知識を、実際の制作と結び付けて考えることができるか。
	【技能】	本校で使用する木材の種類を見分けることができるか。
	【知・理】	工芸の意義や木材の性質、用具や構造について理解することができるか。

教科名	工芸	科目名	木工制作 I	学年	1 学年
教材	教科書	なし		単位数	3
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 木工芸作品の制作を通して、木工芸への関心を高め、ものづくりの考え方を学びます。				
	2 基本的な工具の使用法と木工芸における基礎的な技術を身に付けます。				
	3 加工手順や安全・強度を考慮する力、イメージを単純化する力を身に付けます。				
学習の進め方	1 糸鋸盤やボール盤を使用する教材を通して技術を習得します。				
	2 小作品の制作を通して、手工具の基本的な使用法、素地調整、接ぎ、塗装を学びます。				
	3 高天連携授業等による課題を通して、ものづくりの考え方をまとめていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○刈エンターション ○動物ぐるま製作	学習内容・設備の把握 墨付、糸のこ盤・ボール盤の操作 素地調整、オイルフィニッシュ	簡単な木工作品作りを通して、墨付から完成までの行程及び基本的な工具の扱い方を学びます	
	5		木材の種類、繊維方向と作品の仕上がりとの関係についての学習 服装、安全保持、清掃方法の学習	ホオ、ナラを使用します。	
	6	○おもちゃづくりの考え方 ○動物パズル制作	※高大連携による講義 糸のこ盤による切り出しの習熟 モチーフの単純化・省略化	カツラを使用します。 加工と強度の関係について、制作を通して学習します。	
	7		小刀・彫刻刀の扱いの学習 透かし彫り、薬研彫りの学習	彫りの練習を兼ねたパズル作りであることを理解して下さい。 素地調整に頼らずに切断する技術をつけるよう、意識しましょう。	
	8			強度保持のため、図案は細くなりすぎないようにしましょう。	
	9	構想 (エスキース) ↓	芋接の行い方、クランプ、小刀、鑿、鉋等の扱い方の学習 組立手順、加工と基準面の関係	構想から完成までのオリジナル作品制作を通して、行程の手順制作する上で必要な思考力を	
	前期目標	動物ぐるま及び動物パズルを提出 (構想から作品完成までの制作工程を体験し、具体的な制作のイメージを持つ)			

後	10	○カトラリー制作 スプーン エスキース	機能と形の関係の学習 安全性に配慮したデザイン決定 大型機械による製材の基礎	養います。 各自で必要な材料を選択します。 無駄なく強度・加工工程を考慮して木取りして下さい。
	11	製材 加工 素地調整 塗装	材料選択・加工方法についての作業に応じた工具や加工方法を適切に選択する学習	作業内容に応じて鋸・糸鋸、鑿、小刀、彫刻刀の使い分けする力をつけてください。
	12			素地の状況を判断し、適切な番数を選択して素地調整できる様になってください。
	1	○音のなる工芸品の制作 ラトル ホイッスル のどちらかを選択	集成加工、組立手順について学びます。 工程を考えて機能性を満たす作品づくりをします。	接着、組立、塗装の順を考えて作業するようにしましょう。
	2		作業時間に余裕があれば、他の作品作りにも挑戦しましょう。	べ切を意識して逆算して作業するようにしましょう。
後期目標	カトラリー、音のなる工芸品を提出 (目的に応じた加工の方法・手順を選択し、安全かつ適切に表現する)			

評価方法	提出された作品の状況、課題に対する技術力、デザイン力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。	
評価の観点	【工芸への関心・意欲・態度】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、工芸への関心を高められるか。
	【発想・構想の能力】	課題に応じて美しい形を作り出し、構造や加工法、道具、材料の適切な選択ができるか。
	【創造的な技能】	作業工程に応じた適切な作業技術、安全確認を含め道具の適切な使用ができるか。
	【鑑賞の能力】	作品のよさや美しさ、加工法について考えを深め、制作に生かす事ができるか。